5．西夏文字を創作する段階で西夏語に溶け込んでいた多量の漢語からの借用語にも専用の字形を造った。その場合、固有語を基本に派生字を造り借用語にあてる場合とその逆の場合があった。後者は借用語を中心に見ていたと言える。それらは借用語双生字とよぶ。

6．煩雑な字形をもつ西夏文字は正確な記憶を妨げ、多くの仏典で誤字・当て字に出会う。正しい字形への転換が確かな解読への道を拓いていく。

7．使用例はあっても、その意味や機能を詳しく確定できない文字がなお残っている。

〔付〕西夏文の書き手について

私は、数々の西夏文を書き残した人を三種類に大別したいと考えている。

①Ｍｉ族

②Ｍｉ－ｎｙａｋ族

③Ｍｉ族・Ｍｉ－ｎｙａｋ族以外の人

その中①Ｍｉ族がもっとも西夏文字を使い易かった。当初は西夏語は口語から遊離した言葉と考えていたが語幹変形や声調変化の反映などかなり口語に接近した現象が観察されるので、今は西夏語はＭｉ族の言語体系を土台に造られていたと考えている。そして西夏文字はその西夏語を忠実に表記しようとしていた。

Ｍｉ－ｎｙａｋ族の言葉はＭｉ語の一方言と言えるほどそれと近かったと推測できるから音韻対応を心得る人であれば容易にＭｉ語を使えたのではないだろうか。あるいは西夏文字の中には、まだ気付いていないがＭｉ－ｎｙａｋ語のために造られた字形が含まれているかも知れない。

③の人は、まずＭｉ語かＭｉ－ｎｙａｋ語の口語を学び、ついで西夏文字と文章語を学習したと思われる。

まだ研究の進んでいない分野でこれらの書き手の文章表現上の特徴などを知る手掛かりをつかめることを期待したい。

契丹小字に保存された中古蒙古語の痕跡

－永福と春秋と數詞－

豐田五郎

一、はじめに

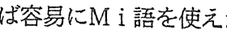
東アジアの未解讀の文字の主なものに契丹・女眞・西夏文字があり研究が進められている。

女眞文字には女眞館譯語という女眞語と漢語の對譯單語集・文例集があり解讀に役立ち、西夏文字には佛典・字典・番漢對譯單語集があり研究がはかどった。

ただ契丹文字には佛典・字典が全く發見されず、墓誌銘の契丹文と漢文を個々につき合わせてその音や意味を讀み取るほかはない。

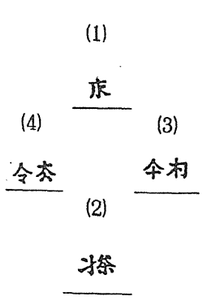
契丹文に漢語借詞が多く、特に契丹小字は聲韻を組み合わせた文字構成が多いので、原字の分析が或る程度成功している。私は契丹文に中古蒙古語の名残りがあると信じているが、その具體的字例として、瀋陽とゆかりの深い慶陵哀册文の中から、永福と春秋を選び試みに解讀してみよう。

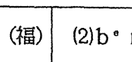
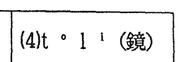
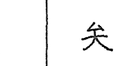
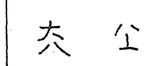
二、永福について

田村實造・小林行雄京都大学グループ諸氏の大著≪慶陵≫1953年は道宗哀册第６行・宣懿哀册第５行中の　  　を永福陵と讀んだ。

村山七郎先生はその有名な論文＜契丹字解読の方法＞（≪言語研究≫17－18号1951年３月掲載）中に次の考證をしている：

朝鮮總督府博物館藏鏡銘文の説明



解讀	(1) s^{u} (福)	(2) $b^{\circ}n^{\varepsilon}k^{\ddot{u}}$ (永)	(3) $g^{u}n$ (宮)	(4) $t^{\circ}l^{i}$ (鏡)
契丹〔原〕字				
突厥字				
意味	s 福	b^{2} n^{2} k^{2} 永遠なる	g^{1} n^{2} 宮	t^{1} l^{1} 鏡

(1)(2)は前述永福（陵）に當たる場所に出ている（尚羅福成≪宣懿皇后哀册文≫滿洲學報第二参照）。

この解讀は原字の排列順序を無視した缺點があるが、從来中國での解讀工作が契丹小字（合成字）と漢文を比較對照して妥當な漢字を當てれば　それでよいとしていたのに對し、村山説は之を原字に分解してそれぞれの音價を比定した點に創意がある。

劉鳳翥教授がその共著＜内蒙古カラチン旗出土契丹小字銅鏡考釋＞≪考古≫1982年第３期掲載に發表したカラチン旗永豐公社房身地發見の八角形銅鏡に、前掲朝鮮出土銅鏡と同様の４ケの契丹小字を鑄出し、左下側に“寶坻官”の陰刻があった。彼は鏡文を壽(3)長(1)福(2)德(4)と讀んだ。又同論文中に中國歷史博物館藏契丹小字壽昌錢銘文甲とバリン左旗文化館藏漢文鐵錢乙を紹介している：

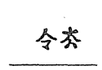
(3)

甲、 

乙、 福

(4) (2)

壽 德

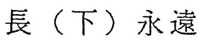
 (1) 



長

それぞれ文字の排列は異なるが、一種の厭勝錢であって吉祥語を鑄てある。劉教授は甲を次の如く讀んでいる：

甲、  壽（上）  ＋  ＝sin （壽昌の壽の意味）

 長（下）永遠長久（  天長地久参照）

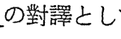
 福（右）  ＋  音不明（羅に従い福の意）

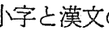
 德（左）  ＋  音不明（鐵錢の德と同義）

乙は分行であり德福長壽（右上下左）と讀む。

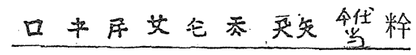
私は長壽と福德をそれぞれ熟語と考える。そこで朝鮮鏡と寶坻鏡を環讀（上右下左）で長壽福德、乙錢文を環讀で福德長壽と讀むがよいと考える。（長möngke 壽SN 福qutuɣ 德doi ）

蒙古語で永遠長久を意味する言葉として蒙古文西寧王碑第７行に：egüri urtu－daがあり、漢文では世々となっている。パスパ文聖旨碑ではmonk'a 永遠のがきまり言葉で、漢文對譯は長生となっている。ウイグル蒙古文聖旨碑でそれはmöngkeである。

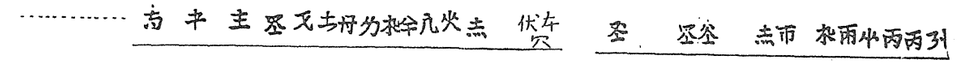
私は  の對譯として聖なる言葉möngkeを選びたい。

次に契丹小字と漢文の兩墓誌伴出の際  字が如何なる漢字に當たるかを調べよう。

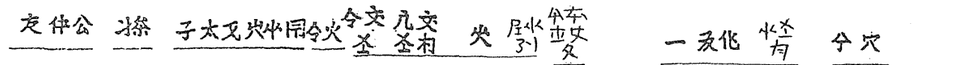
耶律仁先墓誌第27—28行に清寧九年（1063）七月十九日の重元の亂の記載があり、叛亂者の名を次のように列擧しているが、その中で 字は胡覩と對應する：

 ····· ·····

此 年 七 月 十 九 日 ニ 行 宮 ·····清 寧 皇 帝 ····主 因 王 ···



·····叔 父 皇 太 叔 子 楚 國 王 涅 魯 古 二 大 □ 王 □ 陳 留 □

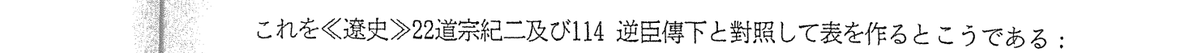


知 院 胡 覩 中 書 令 □ 點 檢 ノ 事 知 撒 剌 竹 北 院 林 牙 溥 古

これを≪遼史≫22道宗紀二及び114 逆臣傳下と對照して表を作るとこうである：

遼　史	小字仁先墓誌
卷22〔清寧〕九年…	此年
秋七月丙辰（十九日）	七月十九日ニ
如太子山、戌午	行宮
皇太叔重元與	叔父皇太叔〔註・孛吉只〕
其子楚國王涅魯古	子楚國王涅魯古
及陳國王陳六	（二大王）陳留〔註・蕭孝友〕
同知北院樞密使事	知院
蕭胡覩	胡覩　〔註・孝友ノ子〕
衛王貼不	中書令□？
林牙涅剌溥古	北院林牙溥古
114 （耶律）撒剌竹……	點檢ノ事知撒剌竹
改殿前都點檢……	
首與重元謀亂	

最近遼寧省北鎭で出土した契丹小字耶律宗教墓誌に宗教が涅里衮相公蕭敵烈の娘を娶り男子二人女子二人を生んだが、次女胡覩古が大翁帳控骨里に嫁したことを述べている：

第21行 第22行 

次 子　胡覩古ハ國舅大翁帳控骨里太保ニ嫁ス

漢文墓誌には：次曰胡覩古適於國舅阿没郎君男控骨里太尉婦とある。

私は中古蒙古語を參照して人名の胡覩及び胡覩古はqutuɣ 忽禿黒（秘史傍訳福神）に當たるものと考える。

秘史105 節：qutuɣ e'ede 福神的門框

張應瑞碑第40行：egüri urtu-da öljei qutuɣ

永遠　長久の　吉祥　幸福

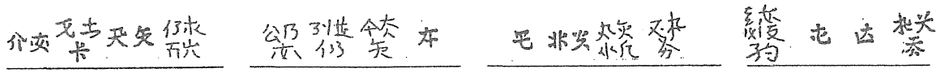
從って契丹小字 は福の草書 を變形したもので と に分割することなく一原字としてqutuɣ と讀むのが合理的である。そして永福はmongke qutuɣ 讀んだがよい。更に≪仁懿哀册≫第５行末字 は抄寫の誤りで、 即ち qutuɣ ＋ inと考えられるが、それは皇后の父蕭孝穆の契丹名胡獨董と符合する。

三、春秋について

張琳撰漢文≪宣懿哀册≫第31-2行を見ると：

樹蕭蕭兮秋巒　樹は蕭々と淋しい秋の巒
草萋萋兮春渚　草は萋々としげる春の渚
皆從來巡幸之地　皆從來巡幸なされた地
盡伊昔宴遊之所　盡く昔宴遊なされた地

このように秋山と春水が對仗句として用いられている。これに對應する契丹小字≪宣懿哀册≫第25行の詩句には必ず春秋の二字を含んでいる筈である。≪契丹小字研究≫では：

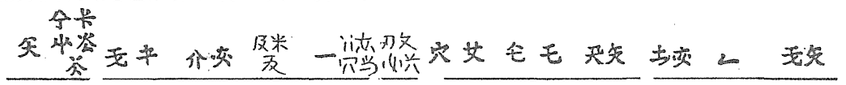


寒　露　日　　四時

と５字のみ傍譯している。[illegible]は[illegible]＋[illegible]であり前者は≪仁懿哀册≫第４行[illegible]（皇太后）の[illegible]でありɣou と讀みうる。後の[illegible]は山路廣明氏が[illegible]（元）を尤安(yu-an) と解讀して以來anと讀むのが通説で≪契丹小字研究≫は[illegible]を寒(han) と讀んだのである。[illegible]を四時とすることには異論がなく陳述先生は1973年これをdörben čaɣ hemeと讀んだがまだ定説ではない。

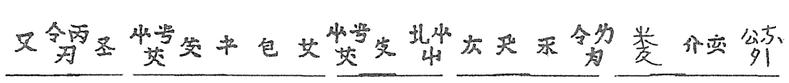
1994年11月私は＜契丹小字の四季の稱呼について＞なる小稿を書き、[illegible]字を春と定めたがその根據は次の如くである。

≪故耶律氏銘石≫第13行に次の項がある：



天　慶　五　年　春　行　宮　北　遷　□　正　月　十　一　日　二　齡　三　十　五　デ

又≪仁懿哀册≫第11行にこうある：



大　康　二　丙　辰　年　三　月　丙　辰　朔　六　日　辛　酉　行　宮　春　捺　鉢

當時の暦の春は正月二月三月であった。そこで私は[illegible]を春と讀んだのである。

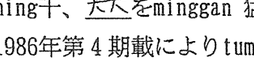
又私は[illegible]をurと讀むべきではないかと考えた。[illegible]は前述の皇太后の后ɣouであり、[illegible]をurとすればɣou＋ur＞ɣouur（ダフル語春haor）で蒙古語春qabur 合不兒に近い。

[illegible]春の對仗字は[illegible]秋と思われる。≪契丹小字研究≫解讀によると原字[illegible]はn、[illegible]はamである。

寧は[illegible] n＋[illegible] ing →ning、内は[illegible] n＋[illegible] ui→nui
三は[illegible] s[illegible] a [illegible] am→sam　監は[illegible] g [illegible] ia [illegible] am→giam

[illegible]をurとすればn ＋am＋urで蒙古語秋namur 納木兒と一致する。

≪宣懿哀册≫第30行に次の句がある：



1994年10月劉鳳翥教授は太原での中國民族古文字研究會發表＜博州防禦使墓誌銘の解讀＞に於いて[illegible]をming千、[illegible]をminggan 猛安と解讀した。[illegible]字はすでに王弘力＜契丹小字墓誌研究＞≪民族語文≫1986年第４期載によりtum 萬と解讀されている。[illegible]が春[illegible]が秋であれば上掲の句は千春萬秋ming ɣouur tümen namurとなるがこれは漢語の千秋萬歲と同義であろう。

漢語	契丹讀音		蒙古語	ダフル語	女眞語
春	[illegible]	ɣou-ur	合不兒	haor	
秋	[illegible]	n-am-ur	納木兒	namar	
面	[illegible]	ni'-ur	你兀兒	niadam	
中	[illegible]	d-ur-da	敦　答	duanda	杜里剌
國	[illegible]	g-ur-n	◎兀魯思	gurun	國　倫
※控骨里	[illegible]	k-ung-ur	晃豁兒	kongoor	

※耶律宗教墓誌第22行人名でqonɣor栗毛馬の意

◎遼史は契丹語國を國阿輦とするが阿を衍字とすれば國輦となり國倫に近い。

四、數詞

蒙古文語の基本數詞はこうである：

1.nige 2.qoyar 3.ɣurba 4.dörbe 5.tabu 6 ǰirɣuɣa 7.doloɣa 8.naima 9.yisü

母音で終わる數詞は、他の語詞と連絡する場合ｎを附して発音する。序數詞は基本數詞に-duɣar,-düger ……番目を附して作る。例えば：

ɣurbaduɣar(3番目), dörbedüger(4番目),

しかし元代蒙古語、例えば西寧王忻都碑ではɣutuɣar（３番目), dötüger（４番目）であり、時代によって變化があることがわかる。

そこで蒙古語數詞の語根を調べると：
服部四郎＜蒙古語＞1939（創元社）：

3.Gur 4.dör 5.tab(u) 6.ǰirGu 7.dolo

野村正良＜蒙古語＞1955（研究社）：

2. ǰir- 3. Gur- 4. dör- 5. tab-6. ǰirGu- 7. dal- 8. na-

miller＜日本語とアルタイ語＞1981（大修館）

2. ǯir- 3. ɣu- 4. dör- 5. ta- 6. ǯir(2)＋ɣu(3) 7. dal-

私は元代より數百年古い契丹小字序數詞の語根を根據として次の如く考える：
（私は1987年６月＜満蒙諸語から見た契丹小字數詞の解讀＞なる一文を書き、ここでは一部補正した。）
又劉鳳翥教授は第35回世界アルタイ学会議で＜契丹小字解讀四探＞中同じく契丹語數詞について述べている（1992年９月台北にて開催）。

		豊田		劉鳳翥
2	𘮩𘮆	ǰir-	𘮩	cerə
3	𘮆𘮆	ɣur-	𘮆	ɣərə
4	𘮩𘮆	dör-	𘮆	tərə
5	𘮆𘮆	tab-	𘮆	t‘au
6	𘮆	ǰirɣu-	𘮆	
7	𘮆𘮆	dolo-	𘮆	dəro

＊２について
序數詞第二・二番目は𘮩𘮆或いは𘮩𘮆と書く。𘮩は蒙古語のduɣar 、ダフル語daar/deer の頭字dらしく、𘮆はこのようで、滿洲語のciに當たり日本語のめ（番とか号）同様順序を呼ぶ語尾助詞である。漢文と對比すると、例えば耶律宗教墓誌（漢文）に次の人名がある：
“國舅突徳太師”これに對應する契丹小字は𘮆𘮆 𘮆𘮆 𘮆𘮆 𘮩𘮆 𘮆𘮆 となっており、突はǰir 即ち突厥（チュルクツ）のtür で、𘮩は徳＝𘮩𘮆dei で突徳はǰirde である。
又蕭仲恭墓誌の主人公仲恭の意味は“二番目の恭”で契丹小字では𘮩𘮆ǰir𘮆čeinを合成して𘮩𘮆と書く。≪遼史≫巻29天祚紀三に“護衛太保朮者”が出現しまた≪金史≫巻82蕭仲恭傳に“蕭仲恭本名求里者”とあるがǰirče は求者或いは求里者の對音である。
ǰir は蒙古語ǰirin okid(二人の娘）など女性雙數としてのみ秘史に殘っている。これについて小澤重男教授はǰirin が二の古形で後にqoyar に取って替わられたものとしている。（モンゴル語における「２」を意味する語ǰirin とqoyar について：≪言語研究≫第45号1964年３月）。

＊３について
序數詞第三・三番目は𘮆𘮆或いは𘮆𘮆と書き、𘮆𘮩 𘮆𘮆とも書く。第１原字の𘮆は漢語混を表す𘮆𘮩ɣon の第１原字と同じくɣであるから𘮆𘮆はɣ＋ｒであってɣur と一致する。

＊４について
序數詞第四・四番目は𘮩𘮆・𘮩𘮆又は𘮆𘮆と書く。𘮩・𘮆は同音字である。𘮩は漢語徳を表す𘮩𘮆dei のｄで𘮩𘮆はｄ＋ｒであってdör-と一致する。

＊５について
序數詞第五・五番目は𘮆𘮆又は𘮆𘮆と書く。第１原字𘮆は漢語通を表す𘮆𘮆tung- のｔであり第２原字𘮆は不buと讀まれ𘮆𘮆はｔ＋ｂでtab と一致する。契丹小字の數字𘮆（５）がtau ということは≪遼史≫巻53禮志六に“討五”とあり、𘮆を首原字とする𘮆𘮆は“陶里兎也”と記されることでもわかる。蕭仲恭墓誌第９行に𘮆𘮆𘮆𘮆との句があるが直譯すると北西招討司であって、𘮆は爪jau(百）、𘮆は討tau(五）で合わせて招討ǰautauと讀むのである。

＊６について
Millerの≪日本語とアルタイ諸語≫p. 277 を見ると、原蒙古數詞ǰirɣu(六）がǰir(二）＋ɣu（三）で成り立つことは1955年にすでにPoppe 氏が指摘していたという。契丹小字序數詞第六・六番目は𘮆𘮩と書かれるが𘮆をjirɣu と讀んでよい。

＊７について
劉鳳翥教授は海棠山墓誌殘石から序數詞第七・七番目に當たる𘮩の字を發見し解讀した。前掲論文によるとこうである：
“𘮆𘮆は𘮆に等しく意味は七である。契丹小字の故耶律氏銘（石）の第２行に𘮆𘮆𘮆の二字があり、漢語借用詞大夫の音譯である。從って原字𘮆の音價はｄであるとわかる。韃靼館華夷譯語數目門によると、明代蒙古語七の音は朶羅安で、首字朶の讀音は原字𘮆の音價と相符合し、我々は從って原字𘮆の音價を羅と推測できる。我々は從って契丹語中七の音を〔dəro〕と推測できる。”
私も第七の語根𘮆𘮆をdolo- と解釋する。

基本數詞
契丹小字で基本數詞を表すものに次の19字がある：

𘮆	𘮩	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆	𘮆
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	廿	卅	五十	六十	七十	八十	百	千	萬

前述の如く序數詞が基本数詞に-duɣar、-dügerを附して作るものならば、契丹小字序數詞から語尾の𘮩𘮆を除くと基本數詞となる筈で、ここで數詞の語根と認めたものはそのまま契丹語の基本數詞と考えてよいであろう。
1986年第４期≪内蒙古大学学報≫に即實は＜契丹數詞の音讀に關する問題＞と題する論文を書き、始めて序數詞を利用して基本數詞の讀み方を調べる方法をとりこう考えた：

包 （三）kurpu →列化 ᚴurukui ～列化 ᚴurukun （第三）

宅 （四）turpu →㚔化 turkui ～令化 turkun （第四）

劉鳳翥教授も1992年前述の同趣旨の論文を書き、これを受けて呂振奎は1995年第４期の≪民族語文≫に＜海棠山契丹小字墓誌殘石補釋＞を書いて同じ見解を示している。：

“すでに契丹語中の序數詞が単純數詞に附加成分を連接して構成されるものであり、もし序數詞の附加成分を取り去れば、のこるのは単純數詞である。”

そこで彼は２ 丞 即ち 北化 をtʃiri 、３ 包 即ち 列化 をɣəri、４ 宅 即ち 㚔化 をtəriと讀む。

五、まとめ

≪契丹小字研究≫1985年は契丹小字中の漢語借詞の解讀を主として成果を擧げた。本文は契丹小字中本來の契丹語に保存されている中古蒙古語の痕跡を個々に探し出そうとした。例えばこれまで意味が福であることは推定されたが 刃祭 の讀音が不明であったのを、諸墓誌中より 刃祭 字と對應する人名胡覩、胡覩古をつきとめ、これをqutuɣ と音譯し、この字は 刃 と 祭 に分割するものでなく、漢字福の草書  に由來すると考えた。又鏡銘文 庆 令 利 刃祭 令 交 の吉祥語を環讀で長mongKe壽SN 福qutuɣ 德doi と読むべきであるとした。SNの讀音は後考を俟つ。

私は次に契丹小字原字 交 をurと讀み改めて

 ɣou-ur春（合不兒）、 n-am-ur 秋（納木兒）、
 ni'-ur面（你兀兒）、 d-ur-da 中（敦答）、
 g-ur-un 國（國倫）、 k-ung-ur控骨里（晃豁兒）

と新たな讀音を與え、更に  千春萬秋ming ɣouur tümen namur を解讀して中古蒙古語の痕跡を明らかにした。

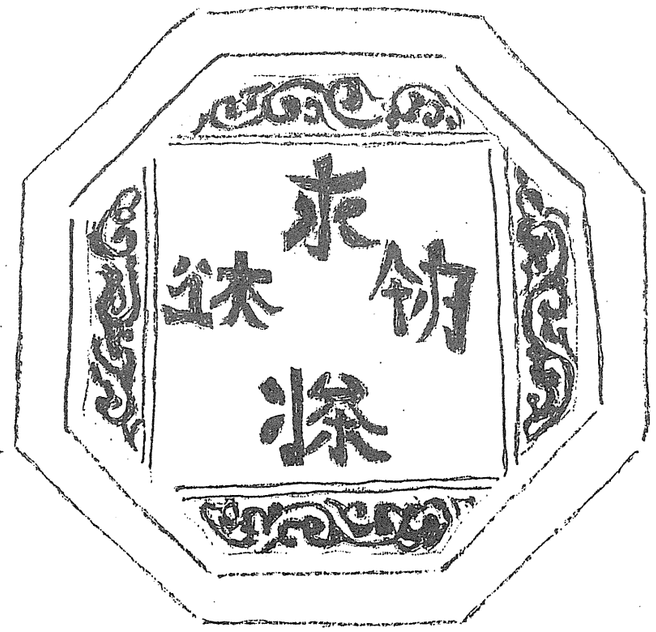
最後に契丹小字には基本數詞のほか約80個も單体字があり、これを單音節とのみ考えることは不可能である。同じ多音節の蒙古語と契丹語との深い關係を解明したく試みにこの一文を作った。

契丹小字の序數詞を手がかりとして若干の基本數詞を解讀することは、契丹語が蒙古語系に屬することを證明する一助となるだろう。

その結果は契丹語の數詞が明代蒙古語より更に原始的段階にあることを示している。

	語根		契丹音		華夷譯語
2	北化	ǰir-			
3	列化	ɣur-	包	忽兒	→忽兒班
4	㚔化	dör-	宅	朶兒	→朶兒邊
5	令亦	tab-	丟	討	→塔莽
6	友	ǰirɣu-	友	只兒瓦	→只兒瓦安
7	六非	dolo-	斥	朶羅	→朶羅安

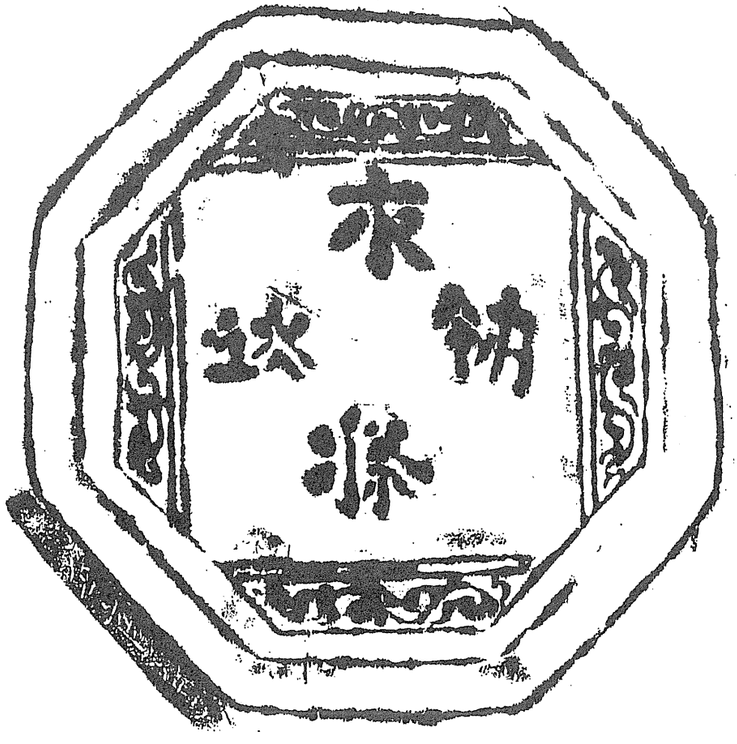
（註）２の基本數詞 丞 が 北化 jir かどうかについてはqoyar との兼ね合いがあり後考を俟つ。



朝鮮八角鏡　遼陵石刻集録より



壽昌錢　契丹小字研究より



契丹小字　寶坻鏡

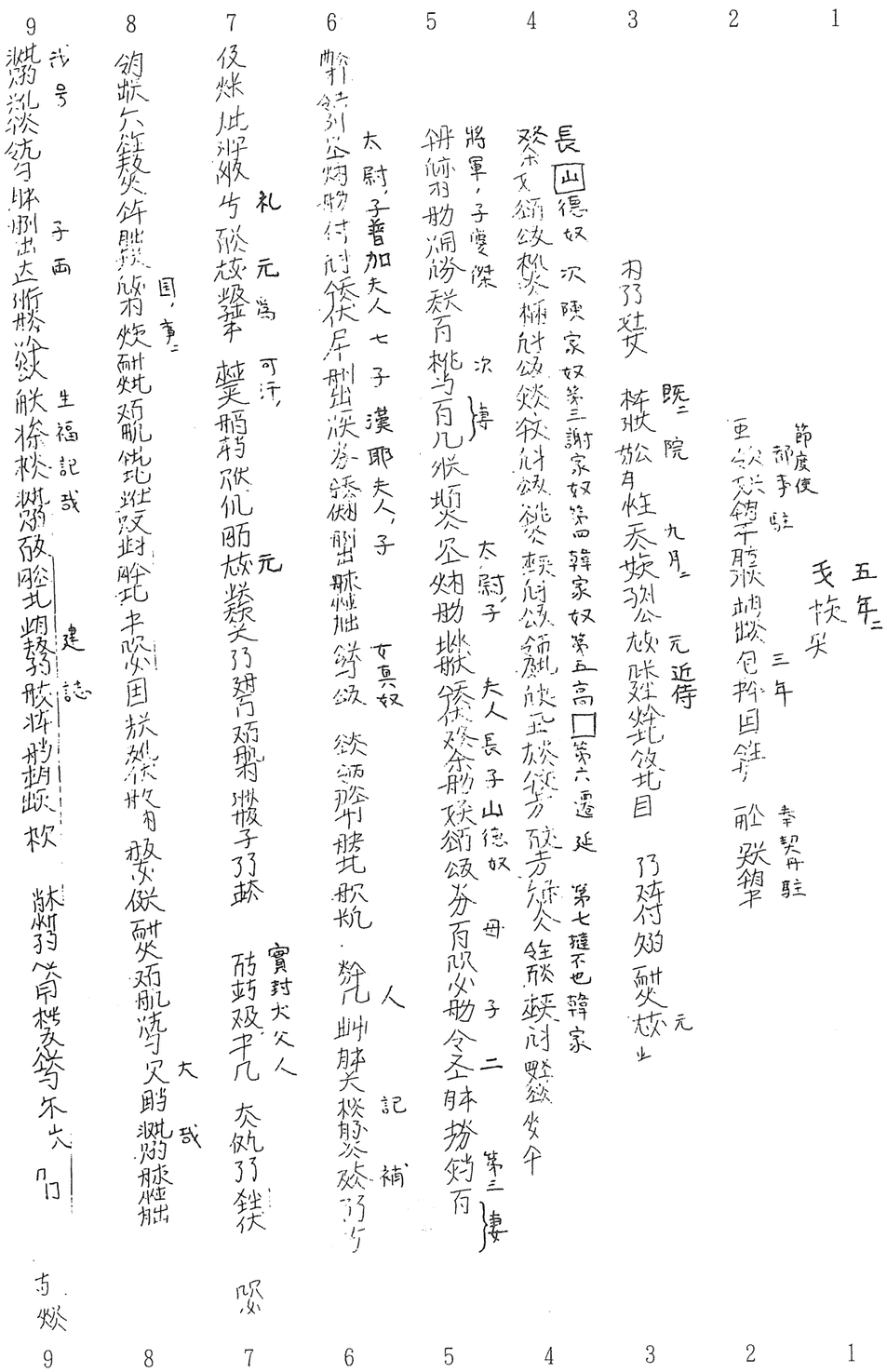
春　露　日

秋　□　□

四　時　□

千　萬　秋

遼寧省阜新海棠山発見契丹小字断碑（部分）一九九三年劉鳳翥恵与拓本より



漢字の字体の中国的標準と日本的標準

石塚晴通

(一)

標題の「字體」に関連して 、本発表に於ける術語の定義をしておく。

書體——漢字の形に於て存在する社会共通の様式。多くは其の漢字資料の目的により決まる。楷書、草書等。

字體——書體内に於て存在する一々の漢字の社会共通の基準。

字形——字體内に於て認識する一々の漢字の書寫された形そのもの。

（石塚晴通『圖書寮本日本書紀研究篇』p .11、1984）

書體—— Socially common form of the type of a character,In many instances,the usage of a particular type is determined by the purpose of writing, 楷書、草書 etc.

字體—— Socially common standard of a particular character existing within the 書體

字形—— Shape itself of a particular character as recognized within the standard of the 字體

(ISHIZUKA:Some Marks in Red and White on S767,国際敦煌吐魯番學術討論會、香港、1987)

中国に於て強力な統一王朝が成立した初唐期に、字體の異なる字即ち異體字というものが強く意識されるようになり、その整理の為「正俗通訛」という基準が見られ、字様という分野の専門書もできて来た。顔師古に依ると伝えられる『顔氏字様』から、その子孫である顔元孫の『干禄字書』へと連なって行った。ただし、ここで誤解してはならないことは『干禄字書』の「正通俗」という基準は、あくまでも顔真卿が書寫して傳えた大暦９年(774)頃のものであり、（この書の成立は 710-720 年と言われるが、現行の本文は其の頃の標準ではない）これに俗字や通字となっていても、その一昔前の初唐期 には標準字體であったものが多く、又、後世もこの基準は若干動いている。結局、各年代の標準的文献を取り上げ、全用例を検討して統計的に把握することにより、各年代の標準字體や、年代が同じでも個人個人の標準に若干の違いが有るということが分かって来た。

このような作業を通して見ると、開成石經の規範性は顕著であり、字體の標準を定めて厳格に守り、異體字の生じる率は１万字にせいぜい２、３字という程度である。この標準が宋版に於ける実践を通して普及、定着したのである。尚、『干禄字書』と開成石經との標準は全く同じというわけではなく（年代も 50~60 年離れている）、相異なる場合宋版は概して開成石經の字體となってい

契丹小字所保留下來的中古蒙古語之痕跡

－永福・春秋・數詞－

豐　田　五　郎

一　前言

東亞未曾解讀的文字有契丹，女真，西夏文字。此項研究正在開展進行。

在女真文字中，有被稱作為女真館譯語的女真文和漢文對譯的單詞集，例句集。在西夏文字中有佛典，字典，番漢對譯單詞集等，它們在解讀過程中起到了很大作用，并推動了此項研究的進展。

但是，契丹文字中的佛典，字典還沒有完全被挖掘出來，只好把墓誌銘的契丹文同漢文對照結合起來進行音和詞意的解讀，除此之外別無他法。

契丹文字中有很多漢語借字，特別是契丹小字以聲韻相結合的構成形式更多，原字分析在某種程度上來説是成功的。我相信在契丹文字中有中古蒙古語的痕跡，做為具體的例子，我從與瀋陽有因緣的慶陵哀冊文中選出了永福和春秋來進行嘗試性的解讀。

二　關于永福

田村實造．小林行雄為首的京都大學研究小組的諸位先生之大作《慶陵》１９５３年中把道宗哀冊第６行．宣懿哀冊第５行的 解讀成永福陵。

村山七郎先生在其有名的論文〈契丹字的解讀方法〉（《言語研究》１７－１８號１９５１年３月刊載）有如下考証：

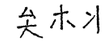
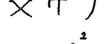
朝鮮總督府博物館藏鏡銘文之説明

(1)


(4)


(3)


(2)


解　　讀	(1)s^{u}（福）	(2)$b^{e}n^{ə}k^{u}$（永）	(3)$ɣ^{u}n$（宮）	(4)$t^{0}l^{i}$（鏡）
契丹〔原〕字				
突厥字	 s	 $b^{ə}n^{ə}k^{ə}$	$g'n^{ə}$	 $t'l'$
意義	福	永遠	宮	鏡

(1)(2)是在前面所提到的永福（陵）那個地方被發現的。（尚見羅福成≪宣懿皇后哀冊文》滿州學報第二）

此解讀在忽視原字排列順序上存在著不足，但是，與歷來在中國的解讀工作中把契丹小字同漢文進行比較對照從而找出一個適當的漢字相比較來說，村山之學說把它分解成原字，把每個音值進行分析和判定，從這一點來說是很有新意的。

劉鳳翥教授與他人共同寫作的＜內蒙古喀喇沁旗出土契丹小字銅鏡考釋＞登載在《考古》１９８２年第３期，在文中揭示了在喀喇沁旗永豐公社房身地發現的八角形銅鏡與以前揭示的在朝鮮出土的銅鏡有同樣的四個契丹小字，并在左下側刻有"寶坻官"的陰刻字樣，他把鏡文解讀成"壽(3)長(1)福(2)德(4)"，又在同一論文中介紹了中國歷史博物館所藏的契丹小字壽昌錢銘文（甲）和巴林旗文化館所藏的漢文鐵錢（乙）：

甲	(3) [契丹字]	
(4) [契丹字]		(2) [契丹字]
	(1) [契丹字]	

乙	福	
壽		德
	長	

每個文字的排列雖有所不同，但它們都是一種鑄有吉祥語的厭勝錢。劉教授把（甲）解讀如下：

甲， [契丹字] 壽（上）[契丹字](si) ＋[契丹字](ən) =sin（壽昌的壽）

[契丹字] 長（下）永遠長久（參照[契丹字] 天長地久）

[契丹字] 福（右）[契丹字] ＋[契丹字] 音不明（從羅而取"福"之意）

[契丹字] 德（左）[契丹字] ＋ [契丹字] 音不明（與鐵錢之德同意）

乙為分行，所以解讀成德福長壽（右上下左）。

我認為長壽和福德分別為常用詞組。在此把"朝鮮鏡"和"寶坻鏡"環形地（上右下左）解讀為"長壽福德"，把"乙錢文"環形地解讀為"福德長壽"。我認為這種讀法是合乎道理的。（長möngke壽ＳＮ 福qutuγ德doi）

蒙古語表示永遠長久的詞在蒙古文西寧王碑第七行有："egüri urtu-da"，在漢文中為"世世"。八思巴文聖旨碑中有"moŋka永遠"一詞，為約定俗成的表現方法。漢文對譯為"長生"。回鶻蒙古文聖旨碑為möngke。

我把 [契丹字] 做為對譯，從而想選擇出神聖之詞möngke。

下面我想查明契丹小字和漢文兩墓誌中同時出現的 [契丹字] 字相當于漢文中的什麼字。

在耶律仁先墓誌第２７－２８行有清寧九年（１０６３）七月十九日的"重元之亂"的記載，如下列舉了叛逆者的名字。其中[契丹字]字胡覩相對應：

[契丹字]

此 年 七 月 十 九 日 行 宮…清 寧 皇 帝…主 因 王 …

[契丹字]

…叔 父 皇 太 叔 子 楚 國 王 涅魯 古 二 大 □ 王 □ 陳 留 □

[契丹字]

知 院 胡 覩 中 書 令 □ 點 檢 事 知 撒 剌 竹 北 院 林 牙 溥 古

把它和《遼史》２２道宗紀二以及１１４逆臣傳下相對照，制成下表：

遼　史	小字仁先墓誌
卷２２〔清寧〕九年…	此年
秋七月丙辰（十九日）	七月十九日
如太子山，戊午	行宮
皇太叔重元與	叔父皇太叔〔注孛吉只〕
其子楚國王涅魯古	子楚國王涅魯古
及陳國王陳六	（二大王）陳留〔注蕭孝友〕
同知北院樞密使事	知院
蕭胡覩	胡覩　〔注孝友子〕
衛王貼不	中書令□？
林牙涅剌溥古	北院林牙溥古
１１４（耶律）撒剌竹……	點檢事知撒剌竹
改殿前都點檢……	
首與重元謀亂	

最近在遼寧省北鎮出土的契丹小字耶律宗教墓誌有如下記載：宗教娶涅里衮相公蕭敵烈的女，有二男二女，次女胡覩古適於大翁帳控骨里婦。

第２１行 [契丹字] 第２２行 [契丹字]

次子　　胡覩古於國舅大翁帳控骨里太保適嫁

漢文墓誌上有："次曰胡覩古適于國舅阿沒郎君男控骨里太尉婦"的記載。

參照中古蒙古語，我認為人名胡覩及胡覩古相當于 qutuγ 忽禿黒（秘史旁譯為福神）。秘史105節：qutuγ eede福神的門框

張應瑞碑第40行：

egüri　urtu-da　öljei　qutuγ

永遠　長久的　吉祥　幸福

因此，契丹小字 [契丹字] 就是福字草書 [草書] 的變形，所以[契丹字]和[契丹字]是不可分割的，做為一個原有文字把它讀解成qutuγ是合理的。另外把永福讀做成möngke qutuγ為好。《仁懿哀冊》第５行最后一字的[契丹字]為抄寫之誤，所以可以認為[契丹字]即是 [契丹字] qutuγ＋[契丹字] in，這就與皇后之父蕭孝穆的契丹名胡獨堇相吻合。

三　關于春秋

張琳撰寫的漢文《宣懿哀冊》第31-2行中使用了秋山與春水的對仗句：

樹 蕭 蕭 兮 秋 巒
草 萋 萋 兮 春 渚
皆 從 來 巡 幸 之 地
盡 伊 昔 宴 游 之 所

在與此相對應的契丹小字《宣懿哀冊》第２５行的詩句裏也必然會有春秋二字。在《契丹小字研究》中，

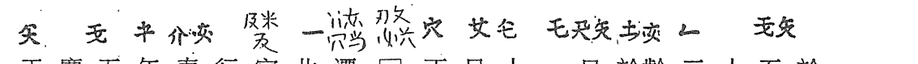


寒　露　日　　四 時

只有在這５個字旁加有注譯。 是 ＋ ，前者是《仁懿哀冊》第４行 （皇太后）的 ，應讀成γou。后者的 是在被山路廣明氏把 （元）讀成為 尤安（yu-an）以后，普遍讀解為an。《契丹小字研究》則把 讀做成寒（han）。把 做為四時雖無異議，陳述先生１９７３年把它讀成dörben čaγ heme，但此讀法至今尚未定論。

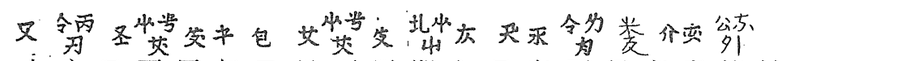
１９９４年１１月拙著＜關于契丹小字的四季的稱呼＞中，把 字做為春的根據如下；

《故耶律氏銘石》第１３行有如下字句：



天 慶 五 年 春 行 宮 北 遷 □ 正 月 十 一 日 於齡 三 十 五 於

另外在《仁懿哀冊》第１１行是這樣的：



大 康 二 丙 辰 年 三 月 丙 辰 朔 六 日 辛 酉 行 宮 春 捺 鉢

當時農歷的春為正月，二月，三月。所以我把 解讀為春。

還有我認為是否應該把 讀成ur。 是前面所提到的皇太后的后字，即γou，如果把 讀成ur的話，那么γou+ur＞γ ouur（達斡爾語的春之意，即haor）這樣就近似于蒙古語春的讀音qabur（合不兒）

春的對仗字 ，普遍被認為是 秋字。根據《契丹小字研究》的解讀認為：原有字 為n，乃 為am。

寧是 n+同 ing ⟶ ning，　　內是 n+火 ui ⟶ nui
三是 s+为 a 乃 am ⟶ sam，監是 g+犬 ia 乃 am ⟶ giam

如果把 讀為ur的話，n+am+ur便同蒙古語的秋字（namur納木兒）相一致。

《宣懿哀冊》第３０行有以下字句：

１９９４年１０月劉鳳翥教授在太原召開的中國民族古文字研究會上發表的＜博州防御使墓誌銘的解讀＞中，把 解讀成為千 (ming)，把 解讀成為猛安（minggan）。 字早在《民族語文》１９８６年第４期刊載的王弘力＜契丹小字墓誌研究＞中解讀為tum萬。如果 是春， 是秋的話，那么上述句子就應是千春萬秋 ming γouur tümen namur。這就與漢語的"千秋萬歲"是同意義的。

漢語		契丹讀音	蒙古語	達斡爾語	女真語
春		γou-ur	合不兒	haor	
秋		n-am-ur	納木兒	namar	
面		ni'-ur	你兀兒	niadam	
中		d-ur-da	敦　答	duanda	杜里剌
國		g-ur-n	◎ 兀魯思	gurun	國　倫
※控骨里		k-ung-ur	晃豁兒	kongoor	

※在耶律宗教墓誌第２２行人名中，qonγor為棕毛馬之意。
◎遼史中把契丹國語讀為國阿輦，如果阿字是衍字的話，那么就應成為國輦，就近似于國倫二字了。

四　數詞

蒙古文語中的基本數詞是這樣的：

1，nige　2，qoyar　3，γurba　4，dörbe　5，tabu　6，ǰirγuγa
7，doloγa　8，naima　9，yisü

以元音結尾的數詞在與其他詞語相聯結時加以n來進行發音。序數詞在基本數詞后加以 duγar, -düger……〔第…（位）〕來表示。例如：γurbaduγar（第三），dörbedüger（第四）。可是我們通過元代蒙古語一例如西寧王忻都碑就可清楚地看出由于時代的不同，γutuγar（第三），dötüger（第四）的表現方法是有變化的。

在此我就蒙古語數詞的詞幹進行一下比較：

服部四郎＜蒙古語＞１９３９（創元社）：

3，Gur　4，dör 5，tab(u) 6，ǰirGu 7，dolo

野村正良＜蒙古語＞１９５５（研究社）：

2，ǰir- 3，Gur- 4，dör- 5，tab- 6，ǰirGu- 7，dal- 8，na-

miller＜日本語與阿爾泰語＞１９８１（大修館）：

2，ǰir- 3，γu- 4，dör- 5，ta- 6，ǰir(2)+γu(3) 7，dal-

我以比元代早數百年的契丹小字序數詞的詞幹為根據如此認為：

（我于１９８７年６月寫有＜從滿蒙諸語所見契丹小字數詞的解讀＞一文，在這裏進行了一部分補充訂正）另外，劉鳳翥教授在第３５屆世界阿爾泰語學術會議上的＜契丹小字解讀四探＞中就契丹語數詞有相同的論述。（１９９２年９月于台北）

		豐田		劉鳳翥
2		jir-		cerə
3		γur-		rərə
4		dör-		tərə
5		tab-		t'au
6		jirγu-		
7		dolo-		də ro

關于二

序數詞第二，第二位寫為 或者 。 像蒙古語的duγar,達斡爾語的daar/deer字頭的d， 像č一樣，相當于滿語的ci，也相當于被稱做表示同樣順序的日語詞尾助詞的め（第…位、第…號）。與漢文相對比、在耶律宗教墓誌中（漢文）以下人名；與“國舅突德太師”相對應的契丹小字為 ，突jir即突厥的tür即是德=dei，突德即是jirde。

另外，蕭仲恭墓誌的主人公仲恭的意思就是“第二位的恭”，而契丹小字就是把 jir和 cein合在一起寫成 。在《遼史》卷２９天祚紀三裏有“護衛太保朮者”的字句，而在《金史》卷８２蕭仲恭傳裏又有”蕭仲恭本名朮里者“那么，jirce就是朮者或朮里者的對音。

jir在蒙古語只是做為表示女性雙數的表現方法jirin okid(兩個女孩）等等，殘存在秘史中。關于這一點，小澤重男教授認為：jirin是“二”的古語形式，逐而由qoyar取而代之。（關于在蒙古語中表示〔二〕的詞jirin和qoyar，見《言語研究》第４５號１９６４年３月）。

關于三

序數詞第三，三位寫成 和 ，或也寫成 。因為第１原字的 是同表示漢語“混”字的 γon的第１原字相同的γ，所以 就應當是γ+r，這樣就同γur一致了。

關于四

序數詞第四，四位寫成 或 。 ， 是同音字。 是表示漢語“德”的 dei的d， 是d+r，這就與dör-一致。

關于五

序數詞第五，五位寫成 或 。第１原字的 是表示漢語“通”字的 tung-的t，第２原字的 讀為“不”bu， 是t+b，這就同tab相一致。契丹小字的數字 （五）讀為tau，這在《遼史》卷５３禮志六中有“討五”的字樣，也使我們了解到把 做為頭一個原字的 也以陶里兔也”的形式有所記載。蕭仲恭墓誌第九行裏有 字句，如果直譯的話，就是“北西招討司”， 是“爪”jau（百），是“討”tau（五），二者合一而讀為“招討”即jau tau。

關于六

在miller的《日本語和阿爾泰諸語》第277頁中有原蒙古數詞jirγu（六）是由jir（二）＋γu（三）所構成的一論述，可是就此，早在１９５５年poppe先生就曾提出過這一觀點。契丹小字序數詞第六、六位寫成 把 就可以讀成jirγu.。

關于七

劉鳳翥教授從海棠山墓誌殘石中發現了相當于第七、七位的 字并加以解讀，引用上述論文如下：

“ 等同于 ，于意為〔七〕。契丹小字＜故耶律氏銘＞第二有 二字，為漢語借詞〔大夫〕之音譯，從而得知原字 的音值為(d)，據韃靼館《華夷譯語》數目門，明代蒙古語〔七〕音〔朵羅安〕。首字〔朵〕的讀音與原字 的音值相符合，我們從而可以推測原字 的音值為〔羅〕。我們從而可以推測契丹語中〔七〕音（dəro）。”

我也把第七的詞干 解釋為dolo。

基本數詞

契丹小字來表示基本數詞的有如下１９個字：

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 廿 卅 卌 百 千 萬

如前所述，如果序數詞是在基本數詞上附加-duγar、-düger而構成的話，那么把契丹小字序數詞去掉詞尾 、 就應該成為基本數詞，被公認為是數詞詞幹的，在這里就可把它認為是契丹語的基本數詞。

在１９８６年第４期《內蒙古大學學報》中，即實以＜關于契丹數詞的音讀＞為題，發表了一篇論文，提出采取開始利用序數詞來查找基本數詞讀法的觀點，例如：

包（三）kurpu ⟶ rurukui～ rurukun（第三）

（四）turpu ⟶ turkui ～ turkun （第四）

劉鳳翥教授也在１９９２年寫有與前述論文具有相同觀點的論文，受此影響，呂振奎在１９９５年第４期的《民族語文》中，發表＜海棠山契丹小字墓誌補釋＞一

文，表示了相同見解：

“既然契丹語中的序數詞是由單純數詞連結附加成分構成，倘若把序數詞的附加成分去掉，剩下的則為單數詞。”

因此，他把2 圣 即 ᠠᡵᡳᡶᡳ、把3 包 即 ᡳᠯᡳᡶᡳ 、把4 屯 即 ᡩᠣᠯᡳᡶᡳ 分別讀成：tʃiri、ɣəri和tə ri。

五　結論

《契丹小字研究》１９８５年以契丹小字中的漢語借詞的解讀為主取得了一定的成果。本文試圖一個個地找出一些保留在契丹小字中的原有契丹語的中古蒙古語的痕跡。例如把至今只是根據意義推論為“福”而讀音不明的 ᡳᡴᡳᡵ 依據諸墓誌探找出與ᡳᡴᡳᡵ相對應的人名胡覩 、胡覩古，把它音譯為qutuɣ，并判斷此字是 ᡳ 和 ᡵ 不可分割的、是由漢語福字的草書演變而來的。同時也認為應該把鏡銘文ᡴᡳᡵᡳ和ᡳᡴᡳᡵᡳ的吉祥語環狀解讀為“長”möngke、壽ＳＮ、福qutuɣ、德doi。ＳＮ的讀音待以后考証。

其次，我把契丹小字原字 ᡳᡵ 改讀為ur，并給與ᡳᡵ ɣou-ur春（合不兒）、ᡳᡵ n-am-ur秋（納木兒）、ᡳᡵ ni'-ur面（你兀兒）， ᡩᡳᡵ d-ur-da中（敦答）、ᡤᡳᡵ g-ur-un國（國倫）、 ᡴᡳᡵ k-ung-ur控骨里（晃豁兒）新的讀音，進一步解讀 ᡳᡵ ᡳᡵ千春萬秋 ming ɣouur tümen namur，從而解明了中古蒙古語的一些痕跡。

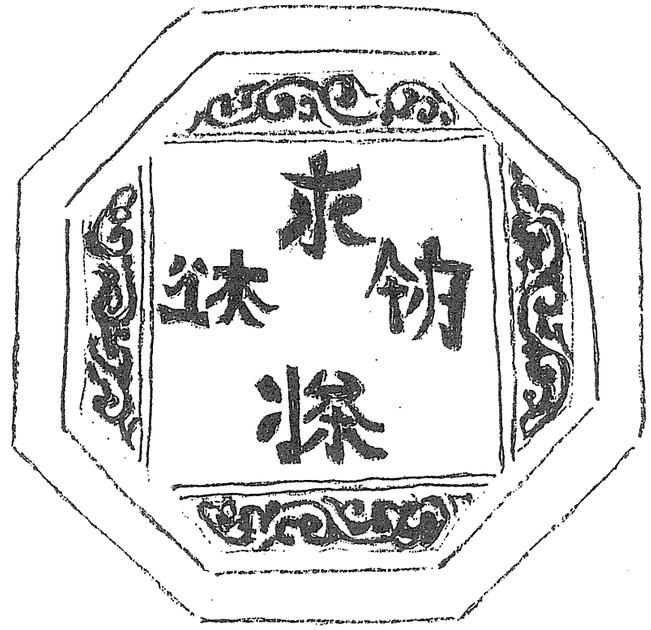
契丹小字中除基本數詞外，還大約有８０個單體字，把它認為單音節是不可能的。此文試圖解明多音節的蒙古語同契丹小字的密切關聯而寫作的。

把契丹小字的序數詞做為第一手材料來進行若干基本數詞的解讀，這對証明契丹語從屬蒙古語來説，能起到助一臂之力的作用。

其結果表明：與明代蒙古語相比較，就可以看出契丹語數詞早就原始性地存在了。

	詞幹			契丹音		華夷譯語
2	ᠠᡵᡳᡶᡳ	ʃir-				
3	ᡳᠯᡳᡶᡳ	ɣur-	包	忽兒	⟶	忽兒班
4	ᡩᠣᠯᡳᡶᡳ	dör-	屯	朵兒	⟶	朵兒邊
5	ᡨᠠᠪᡠ	tab-	戈	討	⟶	塔莽
6	ᡩᡠ	ʃirɣu-	尔	只兒瓦	⟶	只兒瓦安
7	ᠳᠣᠯᠣ	dolo-	斥	朵羅	⟶	朵羅安

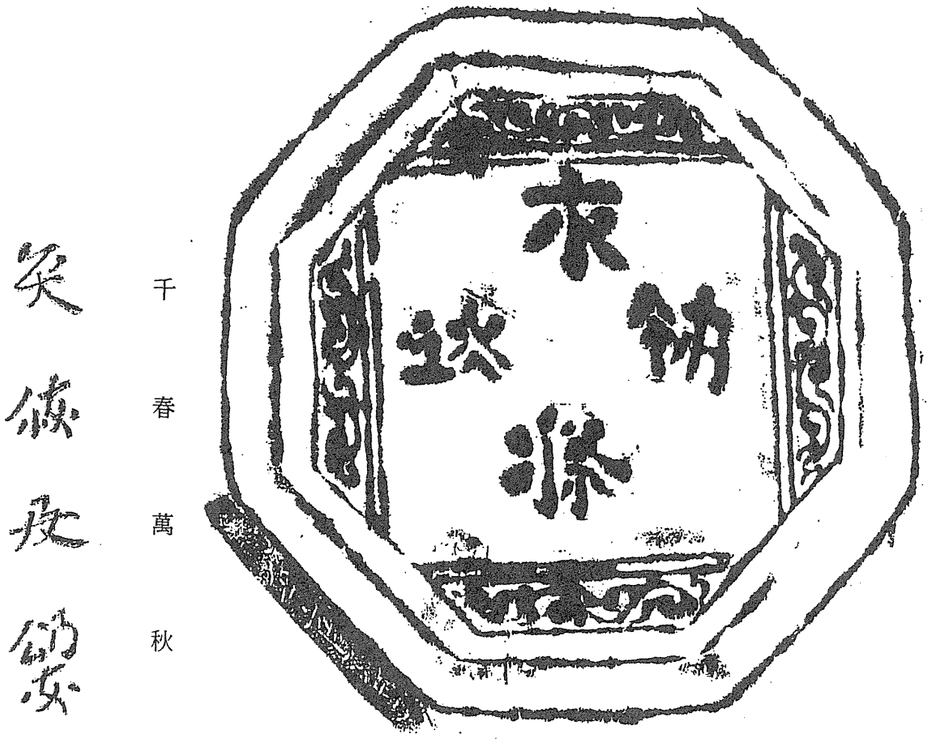
（注）關于２的基本數詞圣是否是 ᠠᡵᡳᡶᡳ ʃir，它與qoyar有何關聯，待以后考証。



朝鮮八角鏡　摘自「遼寧石刻集録」

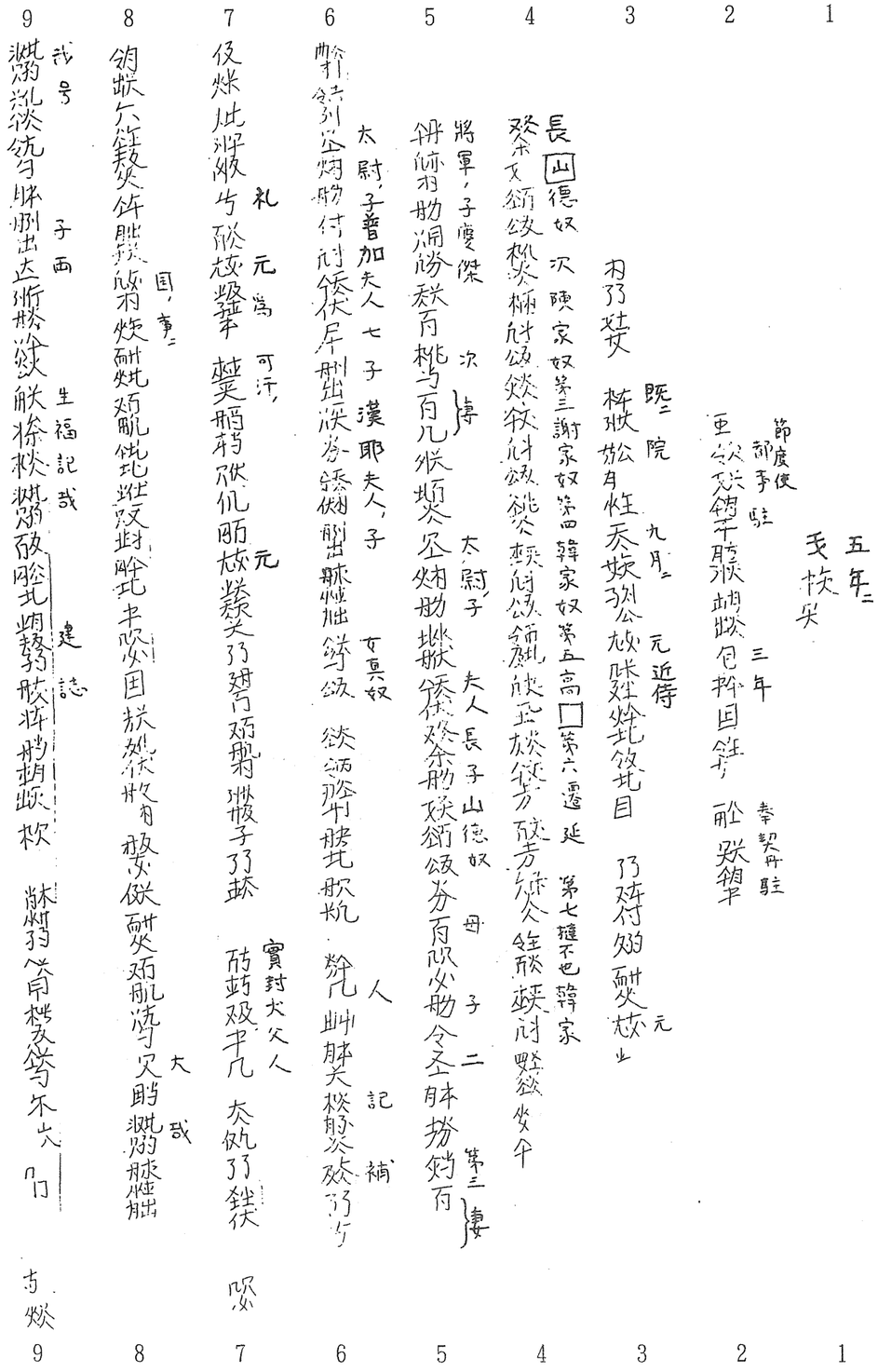


壽昌錢　摘自「契丹小字研究」



契丹小字　寶坻鏡

遼寧省阜新海棠山発現契丹小字断碑（部分）摘自一九九三年劉鳳翥恵与拓本



漢字字體的中國標准與日本標准

石 塚 晴 通

（一）

有關題目中的“字體”及本報告中所使用的術語作如下的定義：

書體 — 漢字形態方面所存在的社會共同形式，多取決于漢字資料的目的，如楷書，草書等。

字體 — 同一書體内所存在的逐個漢字的社會共同標准。

字形 — 同一字體内所識別的逐個漢字的書寫形態本身。

（石塚晴通《圖書寮本日本書紀　研究篇》p·11·1984）

書體 — Socially common form of the type of a character. In many instances, the usage of a particular type is determined by the purpose of writing . 楷書，草書 etc.

字體 — Socially common standard of a particular character existing within the 書體.

字形 — Shape itself of a particular character as recognized within the standard of the 字體.

（ISHIZUKA：Some Marks in Red and White on S，767，國際敦煌吐魯番學術討論會，香港，1987）

在強大統一的王朝——唐朝出現的初期，人們開始強烈地意識到字體不同的字，即異體字。爲了整理異體字，制定出了“正俗通訛”的規則，並且出現了有關漢字字樣的專著。從據説爲顔師古所撰的《顔氏字樣》，到其後代顔元孫的《干禄字書》，是一脈相承的。但需要特别指出的是，《干禄字書》中的“正通俗”之規定，僅僅是顔真卿所寫，並流傳于世的大曆九年（774年）的事情。（是書據説完成于七一〇年～七二〇年，但現行的正文並不是當時的標准。）其中的俗字、通字，在在此之前的唐朝初期多爲標准體，到了後世，這一規定才有了一些變動。因此，通過對各個年代的標准文獻的全部用例所進行的調查結果表明，儘管各個年代的標准字體及年代相同，但在個人的標准中是存在着若幹差異的。

日中国交正常化２５周年記念事業

日中合同文字文化研討会発表論文集

発行日　１９９８年7月1日

編　集　日中合同文字文化研討会編集委員会

発行所　文　字　文　化　研　究　所

所　長　白川　静

日本・京都市中京区三条通烏丸東入梅忠町24-1

TEL 075-252-6424／FAX 075-252-4180